令和７年度 第３回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議 議事要旨

日　　時：令和８年３月 17 日（火）19:00～20:20
場　　所：Zoom を利用した Web 会議
出　　席：９名
浅野 志麻（県立宮古病院）、有賀 拓郎（中頭病院）、金城 達也（琉球大学大学院）、金城 徹（琉球大学病院）、佐村 博範（浦添総合病院）、玉城 研太朗（那覇西クリニック）、仲地 厚（友愛医療センター）、本部 卓也（中部病院）、山本 孝夫（県立八重山病院）、増田 昌人（琉球大学病院がんセンター）
欠　　席：５名
糸数 公（沖縄県保健医療介護部）、仲宗根 正（那覇市保健所）、仲地 厚（友愛医療センター）、宮城 政剛（新川クリニック）、宮里 浩（那覇市立病院）
陪　　席：２名
姫岩 翔子（沖縄県立宮古病院）、西 佐和子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】
１．令和７年度 第２回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について
増田委員より、資料２に基づき、議事要旨について報告があった。

２．宮古島「大腸がん検診キャラバン」進捗状況について
浅野委員より、２月８日に実施された「大腸がん検診キャラバン」の報告があった。便潜血検査キットは 300 人分用意し、キャラバン当日までに 212 名に配布され、その後２月末までに増えて最終的に 231 名に配布された。キャラバン当日に持参された検体は 167 名で便潜血陽性は 33 名（約 19%）であった。また今回はアンケートや問診票を用いてどのルートで受診したかを把握しつつ、主なターゲットであった国保加入の男性に適切にアプローチできたかについては、今後解析を進める予定とのことだった。続いて、委員より、結果が出るまでの待機場所や、人員や資金支援の出所、効果的な広報ツール、今後の展望などに関する質疑があった。

【協議事項】
１．大腸がんプロジェクトの中間評価について
（1）中間評価シート
増田委員より、資料４に基づき、中間評価の手順について説明があった。なるべく３月末までに中間評価シートを配布しますので、４月 15 日までに各施策の○×評価に対するコメントを記入していただきたいとの依頼があった。これを受けて、委員よりコメントの書き方に関する質問があった。評価自体（増えたか減ったか）は○×で示すため、コメントには施

策に対する気づきや改善案、プラスアルファの意見を書いてほしいとのことだった。すべての施策に必ずコメントを書く必要はなく、難しければ空欄あるいは「コメント難しい」等の選択肢を設けるとのことだった。各自が重点領域に絞って意見を寄せてほしいと補足があった。さらに、専門医数の例を挙げ、増加が望ましいとの共通認識を示しつつ、単なる増減のみの言及よりも具体的な提案があると望ましいとのことだった。

（2）全国がん登録による５年生存率

増田委員より、資料５に基づき、昨年末から今年にかけて公表された厚生労働省の「全国がん登録５年生存率報告」について説明があり、がんセンターがまとめた「大腸がん５年純生存率」の資料が共有された。

（3）過去 10 年分のデータとグラフ

増田委員より、資料６に基づき、大腸がん死亡率の最新データとグラフが共有された。

２．大腸がん相談室利用方法の改善について

佐村委員より、大腸がん相談室の進捗状況について報告があった。難しい症例を多く挙げたためか、相談自体は個別にはあるものの、相談室を介さない希望があるため、相談室に症例が届かず個別対応が続いているとのことだった。また、大腸がんを専門にしていない病院で利用してもらう働きかけを行いたいが、病院の選定や関与の仕方に懸念があり進んでいないとのことだった。これを受けて、増田委員から、現在、沖縄県では「大腸がん診療を行う施設」を選定中であり、その結果を確認してから病院を選定することが提案された。

続いて、金城委員より、匿名を希望する医師がいる場合は、佐村委員を介して相談してはどうかと提案があり、症例提示のハードルが下がり相談しやすくなるといった匿名性の利点が挙げられた。続いて、相談室で情報提供と方針決定がされたという証明書のようなものを発行してはどうかといった方策などが議論された。

最後に、増田委員より、大腸がん相談室を活性化し症例を増やすことについて具体的な意見や対策を提示していただきたいと呼びかけがあった。

３．その他

特になし。